

事務事業名 作田川関連市道整備事業

政策:01 暮らしを支える快適なまちづくり

施策:01 道路網の整備・充実

部名:都市建設部

課名:土木課

基本事業:01 幹線道路の整備と維持管理

計画年度	平成15年度	～	平成30年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
道路用地 道路用地地権者				県河川改修事業で設置する管理用道路（幅員3m）を設置にあたり、市が隣接地（2m～4m）の用地確保を行うことにより県が管理用道路を兼ね市道整備を行う。 現在河川に架設されている橋梁の架替えに伴う工事及び市道整備に関する負担金を県に納入する。 市道整備箇所 山武市成東地先（加持橋）～山武市森地先（日向橋） 山武市成東地先（市役所脇） 平成21年度実績 日向工区 2,751,444円 中央工区 273,100円 合計 3,024,544円				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）								
県営河川改修事業に併せて、用地を取得し市道を整備を行う。								
4 活動指標・成果指標・事業費の推移								
区分	指標名称			単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	用地交渉回数			回	50	50	50	50
活動指標								
成果指標	用地取得済面積			m ²	6,523.24	6,702.23	7,421.77	9,000
成果指標								
事業費				千円	127,618	3,599	68,070	
				うち一般財源	千円	127,618	3,599	68,070
5 目的妥当性								
○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い				県の実施する河川改修事業については県予算で対応しており、市道整備分について市予算対応となっており、道路法の趣旨に適合している。				
6 上位の基本事業への貢献度								
● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→） ○ 基礎的事務事業				河川改修による浸水被害の回避が出来ることに併せて、交通網の整備が可能となり、周辺住民の利便性が向上する。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討								
○ 対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる ● 対象や意図の見直しはできない ○ その他				河川用地に付随して整備する道路用地であるので見直しは出来ない。				
8 有効性（成果状況）								
● あがっている ○ どちらかといえばあがっている ○ あがっていない				平成21年度において6名の地権者から用地の取得ができた。残りの32名の方から用地を買収できれば、買収が終了する。				
9 有効性（成果向上余地）								
● 成果向上余地・大 ○ 成果向上余地・中 ○ 成果向上余地・小・無し								
10 事業の再編成								
○ 類似の事業があり、再編成できる ○ 類似の事業はあるが、再編成できない ● 類似の事業はない				整備する市道の位置が河川に平行した路線となるため変更はできない。				
11 効率性（コスト削減の方法）								
○ ある ● ない				無し				